

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (一〇四)

第四章・中東の戦争と平和 (十八)

一〇四 アフガン戦争勃発・呉越同舟の米国とアラブ (五―四)



この戦争でアラブ諸国から多数の義勇兵が参加したが、その最大の人物こそサウジアラビアのオサマ・ビン・ラーデンである。世界中で彼の名を知らない者はほとんどいないであろう。また彼の素性と死に至るまでの経緯も良く知られているが、ここではアフガン義勇兵になるまでの経歴を簡単に紹介する。

ビン・ラーデンは1957年、サウジアラビアのジェッダで生まれた。彼の父親はイエメン出身で若くして聖都マッカの門前町ジェッダに移住、路上の行商から身を起こし、サウジアラビアの初代国王となるアブドルアジズに取り入り、オサマ・ビン・ラーデンが生まれたころはサウジ国内最大の建設財閥になっていた。父親は多数の妻を娶り、ビン・ラーデンは十七番目の息子であるが、十一歳の時に父親が飛行機事故で死亡、当時の金で三億ドルの遺産を相続したと言われる。

彼はその後イスラーム神学校(マドラサ)に入学、過激なイスラーム原理主義に傾倒した。そして22歳の時に義勇

兵としてアフガニスタンに入った。アフガニスタンにはサウジアラビアの援助によるマドドラサが多数建設され、ムジヤヒディン(ジハード戦士)たちはイスラーム原理主義思想に洗脳されていた。そこに三億ドルを抱えてビン・ラーデーンが乗り込んだのであるから彼がすぐに頭角を現し、外国人義勇兵のトップに立ったのは当然の成り行きであった。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)